

平成31年度 学校自己評価表 ( 計画段階 ・ 実施段階 )

【中間自己評価】

福岡県立玄洋高等学校長 印

学校運営計画(4月)		評価(3月)		
学校経営方針	「師弟同行」「開拓者精神」を本校教育のバックボーンとして、個に応じたきめ細やかな指導を通して、一人一人の生きる力を伸ばし、「なりたい自分」の実現に向けた教育活動を推進する。			
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
<p>「主体的・対話的で深い学び」「協働的な学び」をテーマとした授業改善に全教科で取り組み、校内研究授業や公開授業(2回)を行った。事前、事後の研修も含めたPDC Aサイクルの構築により、全教員の授業力向上に成果を上げることができた。</p>	(1) 「(知)学ぶ喜びを知り、知性と教養を高め合う生徒」の育成	<p>ア 授業規律の確立を徹底するとともに、「わかる」喜びと達成感を感じさせる学習指導を行い、基礎基本の定着と論理的思考力・表現力の育成を図る。</p> <p>イ 全ての教育活動において、生徒自身が主体的に活動できる場面を意図的・計画的に設定し、問題解決能力を育成するとともに、自己有用感や自己肯定感を高める。</p> <p>ウ 基礎学力の充実を図り、自己理解を深めさせるとともに、進路に関する情報を収集、整理・分析する力、進路を選択する力を向上させる。</p>		
		<p>「時を守り、場を清め、礼を正す」姿勢を養うとともに、他者の声を傾聴し、異なる価値観や考え方を尊重できる資質・能力の育成を図る。</p> <p>イ 対話を重視した粘り強い生徒指導を通して、あいさつや身だしなみなどの社会性の育成や規範意識の醸成を図るとともに、多様な人間関係の中で自他を大切にできる自己指導能力を高める。</p> <p>ウ インターンシップやボランティア活動などへの主体的な参加を促し、多様な人々と接することでコミュニケーション能力を高めるとともに、社会人基礎力を育成する。</p>		
<p>ホームルーム活動や学校行事を通じて「生徒の自尊感情を高める教育活動」に取り組んだ。個に応じた対話型の生徒指導により自己指導能力の育成に努めた結果、「自分のことが好き」と回答する生徒の割合を大きく向上させることができた。</p>	(2) 「(徳)礼節・規律を重んじ、思いやりのある生徒」の育成	<p>ア 健全な生活リズムに則った生活を自律的に送るために必要な知識及び技能を身に付けさせる。</p> <p>イ 文化祭や体育大会などの学校行事や部活動等における生徒のチャレンジを後押しし、心身ともにたくましく調和の取れた人間形成を図る。</p> <p>ウ 「なりたい自分」を見つけ、自己実現に向けて最後まであきらめず努力できる力を高める。</p>		
<p>教科・科目や特別活動、インターンシップやボランティア活動を含めた全教育活動を通じてキャリア教育に取り組み、生徒一人一人の進路意識を高めることができた。34期生は福岡大学17名をはじめ大学合格者多数、就職決定率100%、進路未決定者0名という実績を上げることができた。</p>		(3) 「(体)挑戦する気概のある、心身ともにたくましい生徒」の育成	<p>ア 預かった生徒の能力や可能性を最大限引き出すとともに多様な個性を伸ばし、進路を保障することで、「郷土から愛され信頼される学校」づくりを目指す。</p> <p>イ 学校行事や研究授業等の教育活動を広く地域や保護者に公開するとともに、積極的な広報活動を展開し、本校の取組の「見える化」を図る。</p> <p>ウ 学校評議員会、学校関係者評価委員会及び教育振興会等との意見交換を積極的に行い、教育活動の改善・充実に反映させる。</p>	
<p>中学校を訪問して本校に対する評価や要望を具体的に収集できたことは本校の課題を把握するうえで役立った。卒業生の姿を広報紙に毎月掲載することで本校卒業後の進路が具体的にイメージできるようになったと中学校から好評をいただくことができた。生徒募集に関して魅力ある学校づくりを行うことが今後の最大の課題である。</p>	(4) 保護者・地域から信頼され、地域と共に育つ、開かれた学校づくりを推進する。			
	具体的目標	具体的方策	評価	現状と課題、解決策
教務	授業規律の確立を徹底する。(チャイム席を守る、黙想・挨拶を行う、私語をしない、居眠りをしないよう指導する。)	予鈴を合図に職員も教室に向かい、廊下等での呼びかけや教室でのチャイム席指導を行う。 授業の始めと終わりの「挨拶」、「黙想」、机上の整理、私語等の指導を通して授業規律の向上を図る。 各学年の巡回指導担当者と連携し、状況に応じ、適切な指導を行う。		
	「わかる」喜びと達成感を感じさせる学習活動を通して、生徒一人一人の学習意欲を高めるとともに、基礎学力の向上を図るための授業改善を推進する。	全学年において観点別評価を実施し、指導と評価の一体化の推進を図る。 観点別評価及びアクティブ・ラーニング、ICTの活用等を通して積極的な授業改善を行う。 互いに協力し課題や疑問に取り組むことを通して学習意欲を高め、「わかる喜び」「学ぶ喜び」を体感できる機会を増やしていく。		
	個別の指導(遅刻カード、対話による指導、保護者との連携、表彰等)を通して、遅刻・欠席者の数を減少させる。	個別の遅刻カードを用いた対話による粘り強い個別指導と保護者との密な連携を通して、遅刻・欠席の数を減少させる。 定期的に皆勤生徒の表彰を行い、生徒の自信と意欲を高めることにより、生徒一人一人の出席率の向上を図る。		
	学校行事を円滑に立案・実施し、有意義な学校行事を通じて生徒の主体的な活動を引き出す。	教科間や分掌間での連携を密にし、教職員間の協力体制づくりを呼びかける。 具体的で明解な計画作りにより、教職員の役割意識を明確にし、生徒が活躍できる学校行事を行う。		
広報企画	「郷土から愛され信頼される学校」づくりを図る。	体験入学において、授業や部活動など学校生活で活動している生徒の姿を紹介すると共に、中学生と本校生が交流する機会を作る。 広報と連携し、学校案内などの刊行物を通して学校内外で活動している生徒の姿を示す。		
	本校での取組の「見える化」を図る。	中学校訪問と学習塾訪問を適宜実施し、本校の教育活動の理解や情報交換等、連携を深める。 入試説明会や進学相談会において、庶務課や生徒会との連携を密にし、玄洋高校が目指す生徒像や募集方針などを丁寧に説明する。 夏秋の体験入学や進路相談事業、入試説明会や進学相談会等、本校をアピールできる機会に写真等の校内掲示を含めた情報公開に努める。 玄洋高校Newsを発行し、地域や中学校に本校の取組をPRする。 卒業後の進路実績等を広報紙に明記することで様々な分野で本校卒業生が活躍していることをPRする。 ホームページに本校オリジナルキャラクター「玄ニヤンの声」を創設し、月2回、学校生活情報を更新していく。		

生徒 育 成 部	研 修	校内外の研修を通して観点別評価の理解と推進を目指すとともに研究授業によってAL型授業のさらなる充実を図る。				
		学ぶ喜びを実感し、確かな学力を定着させるために必要な研修を企画し実施する。	年2回実施する学びの基礎診断の結果を分析し生徒の学力や学習に取り組む実態を把握したうえで授業改善を図る。			
			年2回の授業アンケートの結果を分析し、本校生に対応した資質・能力を明確化させて教科指導力や生徒指導力の向上を図る。			
	研 修	生徒がもつ多様な特性を理解し、思いやりのある生徒を育成する。	スクールカウンセラーによる校内研修を通して生徒一人一人がもつ多様な特性についての理解を深める。			
			生徒の実態を考慮した人権学習を行い、生徒の人権意識を高めるとともに、校外で実施されている人権学習会への教員の参加を促す。			
			図書委員会を中心とする図書館の広報活動を活発に行い、本に触れる来館者を増やし、豊かな感性の醸成を目指す。			
	研 修	心身ともにたくましい生徒を育成するために必要な教員としての資質・能力の向上を目指す。	各分掌や学年と連携して生徒情報交換会を実施し、生徒一人一人に必要な配慮や支援についての理解を深める。			
			救急法に関する講習会を校内研修によって実施することで、生徒が安心して学校行事や部活動に参加できる環境をつくる。			
			教育活動の研究成果や実践報告を研究紀要「濱椿」に掲載することで、教員としての資質・能力の向上に必要な情報の共有化を図る。			
	生徒指導	全ての教育活動において、生徒自身が主体的に活動できる場面を意図的・計画的に設定し、問題解決能力を育成するとともに、自己有用感や自己肯定感を高める。	生徒に多くのことに挑戦させ、生徒の自信につながる言葉かけを行う。			
			学年集会等において、生徒会を中心に各種ホームルーム委員をはじめ、あらゆる生徒に役割を与え、活躍できる場面を設ける。			
			与えられた役割に対して、遂行した際には、クラスや学年集会において、賞賛の場を設ける。			
対話を重視した粘り強い生徒指導を通して、あいさつや身だしなみなどの社会性の育成や規範意識の醸成を図るとともに、多様な人間関係の中で自他を大切にできる自己指導能力を高める。		生徒観察を十分にを行い、コミュニケーションを図りながら生徒と接する。				
		生徒指導は、生徒観察のもと、校内外に関わらず、適時性・即時性を逃さずその場での指導を行う。				
		困難を要する生徒指導に当たる際には、複数の教師で指導に当たり、その後の教師間による情報の共有を密に行う。				
文化祭や体育大会などの学校行事や部活動等における生徒の果敢な挑戦を後押しし、心身ともに逞しく調和のとれた人間形成を図る。	生徒会を中心とした各種委員会活動においては、各場面で生徒が主体的に活動できるように、生徒と十分に連携を図りながら指導する。					
	新入生体験入部の実施、並びに退部した生徒の再入部への呼びかけを部長とも連携を図りながら粘り強く行う。					
	集会や各行事、部活動においては、設定された時間を厳守する習慣をつけさせる。					
保 健	毎時間の授業に集中できるよう授業中の安易な保健室来室数を減らす。	自らの食生活や生活習慣を見直し、健康管理についての意識向上を図るため、保健課の掲示板を積極的に利用する。				
		保健室の休み時間利用を促進するために、教務や教科担当との連携を図る。				
	心の健康問題を抱える生徒に十分対応するため、外部機関（SC、SSW、訪問相談員）と更なる連携を図る。	不登校生徒数の減少を図るため、教育相談委員会等で情報共有を行い、外部機関と連携した教育相談機能を充実させる。				
		学年会や教育相談委員会等の情報を養護教諭と共有し、外部機関との円滑な連携を図る。				
	「みんなが掃除をしている、いつも学校がきれいである」状況を作る。美化点検の充実を図るとともに、地域社会に美化活動で貢献する。	掃除用具の過不足をなくすため、美化委員会と連携した在庫管理を定期的実施する。				
		美化委員会を中心に定期点検を行い、きちんと清掃できていないところはクラスや担当に報告し改善を促す。				
	ボランティア活動への積極的参加を促すため、部活動や生徒会と連携する。					

キャリア教育	進路指導	生徒の学力状況を反映した課外授業を実施し、基礎学力の向上を目指す。			
		基礎、基本を重視した学力の伸長を図り、自らの力を客観的に判断して取り組むことのできる能力を養う。	学びの基礎診断、外部模試などの分析を学年、教科と適宜行いながら組織的に対策をとり、授業、課外の実施内容に反映させる。		
			総合的な学習、探究の時間を活用し、系統的に作文・小論文に取り組み、生徒の論理的思考力、自己表現力の育成を図る。		
		様々な教育活動をとおり、他者と接したり人の話を聞く機会を設け、コミュニケーション能力を高めながら自己の望ましい人間像を構築する。	アカデミックインターンシップやカタリバ、「ようこそ、先輩！」などの行事をとおり他者の生き方に触れながら、自己の将来を考えさせる。		
			大学、専門学校、ハローワーク等の連携を図り、マナー講座や社会で必要とされる人材を目指すためのセミナーを実施する。		
		希望進路先についての必要な知識や学力を身につけ、その実現に向けての継続した取組を行う。	課外、勉強合宿、夏季セミナー等の内容を充実させ、出席を督促しながら継続した形で学習活動に取り組ませる。		
キャリア教育	人材育成	進路に関する情報を収集する力、進路を選択する力を向上させる。	3年次就職・公務員ガイダンスを通して、就職する企業、職種の情報を得る。		
			アカデミックインターンシップに参加し、自分の進路に必要な情報を収集させる。		
			1年次の進路ガイダンスによって、社会で働く際に注意する点を確認させる。		
		インターンシップやボランティア活動など様々な教育活動を通して、社会人基礎力を育成する。	3年次就職・公務員ガイダンスを通して、ビジネスマナー、礼儀作法を身に付けさせる。		
			2年次就職希望者をインターンシップに積極的に参加させ、就職に必要な素養を身に付けさせる。		
			ボランティア活動を通して、参加生徒の社会への奉仕する気持ちを育てる。		
学年	第1学年	「なりたい自分」になるために、粘り強く努力できる力を高める。	3年次の夏季就職指導を通して、面接・履歴書記入など採用試験に向けて準備させる。		
			2年次の進学希望者をジョブシャドウイングに積極的に参加させ、自分の希望進路に必要なことを確認させる。		
			1年次で実施するカタリバを自分の進路を考えるきっかけとし、どのように学校で努力することが大事か理解させる。		
		郷土から必要とされる生徒を育成し、入学時より生徒の力を伸ばす。	元岡豊年祭りといった地域の諸行事に積極的に参加し、交流を行う。		
			地域のボランティア活動に積極的に参加し、地域の一員として育成する。		
		○基本的生活習慣の確立と高校生活の充実を図る。 ○学習方法の指導を通じて、知識を得ることの楽しさを引き出す。 ○社会及び自己の未来を見据えて、自分に適した進路を選択する能力を育成する。	「時を守る」ことの大切さを理解し、欠席・遅刻を安易にしないよう指導するとともに、集会等においても、一人一人が速やかに集合できる意識付けを行う。 ルールを守ることが充実した学校生活を送るために必要不可欠であることを指導し、ルールを前向きにとらえる心を育てる。 学び直しの学習を活用し、中学校段階までの学習内容の定着を図る。 検定試験等を通して、生徒の学習意欲の向上と「やればできる」という自信や希望を持たせる。 アカデミックインターンシップやカタリバ等の体験的な活動を通して、実際的な進路意識の向上を図る。 進路学習を通して「なりたい自分」の姿を明確に描き、あわせて望ましい職業観を育成する。		
第2学年	○基本的生活習慣の定着を徹底するとともに、校訓「向学」の精神に基づいて学びの姿勢の尊重と学力の向上を図る。 ○集団活動を通して、生徒相互の連帯感を育成し、人間の尊厳と人権を尊重し、校訓「礼譲」の精神をもって相手を思いやり共助の精神を育成する。 ○校訓「進取」の精神にもとづき、社会及び自己の未来を見据えたうえで、生徒一人一人にそれぞれに適した進路を自ら選択・実現することができる能力を育成する。	欠席・遅刻を安易にしないよう指導し、チャイム席や各集会の際に「時を守る」ことを徹底する。出席率90%以上を目指す。 玄洋検定やGTプロジェクト等を通して、進路実現に必要な実践的学力の向上を図る。 教室等の学習環境の整美を促し、毎日の清掃活動を通して「場を清め」る指導に努める。 普段から始・終業時や校内での元気な挨拶や端正な身だしなみを促し、「礼を正す」機会を多くつくる。 ジョブシャドウイングやアカデミックインターンシップ等の体験的な活動を通して、実際的な進路意識の向上を図る。 総合的な学習の学習を通して「なりたい自分」の姿を明確に描き、それを表現する力を養う。			
	第3学年	○教育活動全体を通して自尊感情を高め、最上級生としてそれぞれの個性を生かしてリーダーシップを発揮し、学校生活を牽引できる集団を育成する。 ○社会人として必要な資質を身に付けさせる。 ○学習への積極的な取り組みを促進し、生徒の自己実現を果たす。	体育大会を目指し、学年集会や諸行事の際に生徒の得意な分野で主体的に活躍できる場を設定する。 様々な場面で目標設定や振り返りを行い自身の成長を実感しながら、共感的な人間関係を作り、学校全体を牽引できるようリーダーシップのみならず人間性を向上させる。 総合的な学習の時間等を活用し、外部機関の協力を仰ぎながら、社会人としての意識付けを行なう。 「時を守り、場を清め、礼を正す」を根本に、ボランティアなどへの積極的な参加を促し、社会人として通用する礼法や言葉遣いを身に付けさせ、社会人基礎力を育む。 生徒の希望進路に応じた分野別指導を充実させ、個々の目標に沿ったプランニングを支援しながら、個別指導を細やかに行う。 キャリア教育部、教務部と連携し、学力を向上させ、全員の「なりたい自分」を目指し、進路実現をする。		